

千葉大学医学部同窓会報 第111号

題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るの は な 同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
るの は な 同窓会報編集部
〒260 千葉市中央区玄鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るの は な 同窓会
電話 (043) 222-7171 内線5026



橋 正道教授



永野俊雄教授

平成8年3月で定年により千葉大学医学部の教壇を去られる永野俊雄教授(解剖学第二)、橋 正道教授(生化学第二)および島崎 淳教授(泌尿器科学)の退官記念式典が、3月16日午後2時より、千葉大学医学部附属病院第一講堂において医学部主催により行われた。高橋英世医学部長、名誉教授代表吉田 亮先生、同窓会長井出源四郎先生の挨拶のあと、同門代表黒住一昌(解剖学第二)、村越

退官記念式典 盛大に開催

善衛(生化学第二)、石川 亮夫(泌尿器科学)の各先生からそれぞれ祝辞があり、つぎに謝辞が豊田二美枝助教授(解剖学第二)、鈴木信夫助教授(生化学第二)および安田耕作助教授(泌尿器科学)よりそれぞれ述べられた。記念品贈呈、花束贈呈のあと、退官される3名の先生が挨拶された。

つづいて記念講演が柏木 繁男先生(千葉大名誉教授)により「人的事故の発生防止とクレペリン型加算検査」と題し行われた。

その後、記念祝賀会が附属病院第三講堂で行われ、当日の記念事業は滞りなく終了した。

なお3先生による最終講義は、学生ほか学内外多数の方々の出席の下、左記の



島崎 淳教授

祝 叙 勲

平成8年春の叙勲

勲二等瑞宝章

渡辺昌平(昭20)

奥田邦雄(満医大昭19)

勲三等旭日中綬章

奥田邦雄(満医大昭19)

勲四等旭日小綬章

片山一郎(昭25)

勲四等瑞宝章

岩垂 信(昭26)

勲五等双光旭日章

小畑 親(昭23)

勲五等瑞宝章

山崎 衛(昭19)

勲五等瑞宝章

久富良次(昭12)

祝 表彰

平成7年度

医療功労賞全国表彰

野原 宏(昭17)

医療功労賞千葉県表彰

野原 宏(昭17)

中村 仁(昭32)

北方勇輔(昭35)

演題で行われた。

永野俊雄教授「電子顕微鏡でみた細胞の世界」

橋 正道教授「生化学研究の流れの中に」

島崎 淳教授「前立腺癌のホルモン依存性とその喪失」

るの は な 同窓会総会のお知らせ

今年度のるの は な 同窓会総会を左記により開催致します。同封の葉書にて出欠の返事をお送り下さい(6月20日必着)。

一、日時 平成8年6月29日(土)

午後3時より

一、場所 ペリエホール(千葉駅ビル五階) 高千穂の間(電話〇四三一二七一一九五)

一、総会次第

(1) 会務報告

(2) 議 事

①規約改正の件

②平成七年度決算承認の件

③平成八年度予算(案)について

④るの は な 同窓会賞候補者選考について

⑤その他

(3) 報告事項

①各地区るの は な 会の近況

②その他

一、懇親会

午後4時より

午後5時より

会 費 五、〇〇〇円(当日受付にて申し受けます)

千葉県るの は な 会新発足

「千葉県るの は な 会設立」については、一昨年7月以來常任理事間で何度となく検討を重ねてきた。昨年6月の同窓会総会后、世話人会をもち、発足に向けて、会則、運営などにつき具体的に討議した。即ち、千葉県下の学外の「るの は な 会」として、例えば相互診療協力、情報交換、就職斡旋など新たな視点から出発し、若い医師達の参加も得て、活性化を計るべく考慮した。同窓

会員2千名を越える県下を10地区に分け、地区毎に支部長をおくこととした、数回の会合の末、平成8年4月11日(千葉京成ホテルに於て)の設立総会となった。来賓に井出同窓会長、東京るの は な 会加納会長、貫洞副会長、大学より木内理事を迎えた。伊東理事の司会により開会。まず、発起人代表渡辺武氏の挨拶に於て、前記の如き今日までの経緯が語られた。次いで同

氏を議長に選り、議事が討議された。会則案、役員案が越川理事より説明提案され、承認された。運営に就ては、主として会員より意見、提案があり、活発な議論となった。

これらについては、本会発足後、検討委員会に於て逐次改めてゆくに吝かでない旨、会長より答弁があり諒承された。報告事項では、4月8日現在、会費納入一四七六口、総会への出欠解答6百通、出席60名との報告があった。

来賓挨拶で井出会長から、この会の発足を祝し充実発展を祈るとの言葉を頂いた。

続いて行われた懇親会は茂又理事司会のもと、東京加納会長の乾杯に始まり、貫洞、木内理事、新藤清司氏の祝辞などあり、同窓の誼か、諸々の和気のもと歓談の輪は、三枝理事の閉会のことばまで尽きることなく続いていた。

県内各地区では、同窓会活動の未だない所や既に行われている所もあると思われるが、何れも出来る所から漸次新発足の「千葉県るの は な 会」に参加して頂けるよう庶幾うものである。

(伊東和人・記)
(第5面に関連記事)

教授就任の挨拶

富山医科薬科大学医学部
泌尿器科学講座
布施 秀樹 昭51卒

このたびは片山喬教授(昭

平成5年〜6年には文部省
長期在外研究員としてオラ
ンダのエラスムス大学に留
学して前立腺癌について、
その増殖と成長因子との関
係を中心として研究をすす
め、帰国後はその成果を発
展すべく努力しているとい
うのでございます。

現在、ゐのはな同窓会会

員では片山喬副学長・附属
病院院長、辻陽雄医学部長(整
形外科学、昭33卒)、寺澤捷
年教授(和漢診療学、昭45
卒)が要職を占められ、活
躍中であり、私が富山医科
薬科大学に赴任して以来、
主宰されていた泌尿器科学
教室に入局いたしました。
その後、主に教室に在籍い
たしましたが、千葉労災病
院、国立佐倉病院、千葉県立
佐原病院などを歴任し、教
室では尿路性器悪性腫瘍
(主に前立腺癌)、および雄
性生殖生理などを研究テー
マとして仕事をしてまいり
ました。

昭和63年11月富山医科薬
科大学へ移ってからは、片
山教授のもと本学に行っ
てきたテーマをさらに発展
させるべく研究、診療を行
ってまいりました。その間、

当教室の研究テーマは男
子不妊症を代表とした雄性
生殖生理、尿路性器悪性腫
瘍を中心として、尿路結石、
腎移植、神経因性膀胱、尿路
性器感染症など多岐にわた
っておりますが、いずれの
分野でも基本的には基礎と
臨床研究の相補性すなわち
基礎研究の成果を臨床に還
元するとともに臨床上の問
題点を基礎的テーマとして

とりあげて研究するという
立場をとってまいりました。
今後、これらの領域を国
内はもとより国際的にも評
価されるレベルに発展させ
るためには、独創的発想を
こころがけるとともに分子
生物学的手法などの最先端

技術の応用が肝要であると
考えております。
以上、微力ではありますが
が研究、診療、教育に専心努
力する所存でございますの
で、今後とも同窓の諸先生
方の一層の御指導、御鞭撻
をお願い申し上げます。

昭和大学医学部形成外科学講座

保阪 善昭(昭46卒)



院などを有しております。
大学は医、歯、薬の3学部を
持ち、約70年の歴史を持っ
ております。

学生時代に新聞部(ゐの

はな同窓会報)の先輩であ
る一瀬正治現千葉大学形成
外科教授のおられた中央鉄
道病院を訪ねた時に鬼塚教
授とお会いし、形成外科の
道を選びました。国立東京
第一病院にて外科の研修を
行い、48年に昭和大学に勤
務致しました。その後東京
通信病院や帝京大学に出張
したあと、昭和57年に昭和
大学に助教として戻りまし
た。昭和60年にはカナダ
へ留学し、平成6年9月に
員外教授となりました。

現在の教室員の構成は助
教授2、講師3、助手6のほ
か員外助手や大学院生など
約20数人が大学で働き、そ
のほか出張している医局員
などを含めると約90人の在
局者を持ち、病床数は63床
と同級です。

昭和大学と病院は品川区
の旗の台にあります。その
のほか藤が丘病院、豊洲病
院、藤が丘リハビリテーシ
ョン病院、歯科病院、島山病

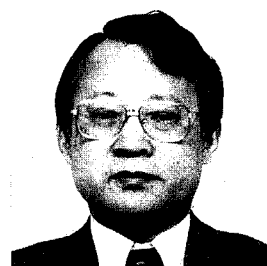
です。鬼塚名誉教授は一代
で同門会員約3百名、内留
学生約百名を持たれ、千葉
大学の非常勤講師をしてお
られた関係で19人の千葉大
学出身の先生がおられま
す。

現在、昭和大学では佐藤
兼重助教授(昭51)、藤が丘
病院では近藤省三教授(昭
36)が活躍されており、ま
た、千葉市では野田宏子先
生(昭45)が開業して頑張っ
ておられます。教室の関連
病院には一瀬教授のご尽力
により千葉大学の関連病院
も多く、千葉こども病院(宇
田川晃一先生昭53)、千葉県
がんセンター(重原岳雄先
生昭58)、松戸市立病院(大
隅昇先生昭59)、千葉県救急
医療センター(木村直弘先
生昭61)、船橋中央病院、習
志野第一病院、沼津市立病
院があり、いつもいろいろ
とお世話になっておりまし
た。この紙面をおかりして
同窓の先生方に心より御礼
申し上げます。そのほか全
国に関連病院があり、鈴木
啓之(昭61)、鎌田聡(昭63)、
中山貴裕(平3)の各先生が
出張中です。

他科の同窓の先生といた
しましては藤が丘病院放射
線科の国安芳夫教授(昭
36)、豊洲病院院長の栗原稔教
授(昭36)が活躍されており

ます。

昭和大学では教室のメイ
ンテーマである口唇口蓋裂
の治療をはじめとする顎顔
面外科、皮膚腫瘍や母斑(ア
ザ)、耳介奇形の治療、美容
外科診療を主に行っており
ます。赤アザ(血管腫)用と
茶アザ(母斑、シミ)用の最
新式レーザー装置を持って
おりますので、その方にも

東京医科大学WHO呼吸器内視鏡協力
研究研修センター
田中 満(昭38卒)

である「塵肺の早期診断と
治療」に参加してまいり
ました。

WHOは「2000年ま
でに全ての人々に健康を」
の標語をあげ、癌、大気汚
染、喫煙、エイズの撲滅を
最重要テーマにしていま
す。当センターもWHOの
意図に沿い、日本で開発さ
れた内視鏡を普及させ、ま
た新たな内視鏡を開発し、
先端技術と連結させ、臨床
および研究の面で呼吸器疾
患の解決に努力しようと思
えて居ります。また、開発
途上国の医療向上のために
協力する事も大きな目的の
一つとしています。

同窓の諸先生方のご指導
と合わせ、ご鞭撻の程をお
願い申し上げます。

私は千葉大学医学部を昭
和38年に卒業し東京医科歯
科大学第4内科、慶応義塾
大学放射線科、放射線診断
部、放射線診断科などの助
手、講師、助教、および、
WHO専門委員を兼ねて、
WHOの国際プロジェクト

「おのほな随想」 なんとかなるさ症候群

渡辺 武 (昭27卒)

毎年国民医療費が1兆円づつ増加し、この傾向は高齢社会を迎えるに当たってさらに急カーブで上昇する。かくて医療費亡国論へと発展していく。そこで有無をいわず、ますます医療費抑制策に弾みが付いていく。一九九四年の病院数九七三一、廃院数一八三。そのうち99床以下が83%。病院の7割が赤字というなかでの医療費改訂3%アップが実質1%かという声をバックに(岡光保険局長の毛皮発言(アップ分は院長婦人の毛皮に化ける)があった。いつものことながら後で取り消しても無駄であり、今回は薬価差益1兆3千億円はそのまま開業医の懐へという厚生省の一方的なやりかたの繰り返し。ますます相互の不信はたかまり国民への鬱寄せとなっていく。

ほとんどのいわゆる経済学者、専門家の予見が大幅にはずれてのバブル崩壊。素人以上の無定見な金融システムで皆が渡れば怖くないとばかりに金に目がくらんだの住専問題のこたこ

こが狂っている。一九九四年、米国の消費者健康情報調査研究所(C H I R I) がいかかわしい治療(Quickメディシン)に支払われる年間費用は300億ドル(3兆円)と発表している。Quickとは「あひるががああ鳴く声」のことで「にせ医者、山師」の事。米国では効果が疑わしい医療にだまされないように市民を守るボランティア団体があり、Quickを粉砕する「Quick Busters」とよばれており、設立者はJon H. Renner(ブローリ大学家庭医学教授。また代替医療をよく利用していたのは医療費が支払えない貧民層ではなく高学歴、高収入の非黒人層であったという)メディカル朝日一九九四年7月号)。日本ではどうであろうか。3%の消費税でさえ反対した社会党の議長をえらぶ国民が何にでも効くという金の腕輪をはめて病院に通う漫画はまだよいとして、お布施に身までささげてしまう文盲率0%の文化国家の中身をどう解釈すればよいのか。

私は偏差値教育で自ら考える事を忘れたマニユアル人間、ロボット化教育にあると思っている。単なる知識の習得に終っており、体得・納得したものになっていないからである。健康教育もただ一方通行の安上がりパンフレット指導では何にもならない。Plan・Do・Seeが無く、ただやっていることで自己満足に終わっている。糖尿病がどんどん増えている。いまや国民病となっている。やがて成人の25%を占めるといふ。全身病として腎透析は10万人を越え、失明の原因の大きな部分を占める。いくら糖尿病週間をつくって啓蒙しても効果が全くない。ではどうするのかの発想の転換が要い。

タバコの害をいくら教育しても、日本の喫煙率は59%で先進諸国のトップを占める。個人の自由だ、干渉するなというなら健康保険を利用しなければよい。

医療費亡国論でその抑制だけしか考えない視野の狭さから脱却して、国民にも責任があるような参加型の医療システムしかもう解決策はない。どんなに良いビデオをつくりテレビで放映しても、わざわざテレビの前に座って勉強するような国民ではない。

楽しく疑似体験まで出来るような、命の尊さが実感できるような学習施設、メ

ディカル・デイズニールンドといった日本健康科学センターが必要である。週休2日を有効に利用して時間があったら繰り返し参加する。元気老人や温泉、ゲートボールにはもう飽きたという。いま最も必要とされるマンパワー、ヘルパーの養成には、全国の専業主婦千二百万人のうち5%がここで1週間学習し検定を受ければ、60万人のパワー養成は簡単な事である。発想の転換しか日本の危機は救えない。進歩する医学に適応するためにそのソフトの開発にはシンクタンクが必要である。健康情報開発財団がそれである。この構想研究には国と県から3年間にわたり補助金をいたたいっており、今年3月で終了する。

「なんとかなるさ症候群」でお茶を濁しているうちに住専と同じく、もう高齢社会の地獄の釜は口を開いている。関西(兵庫県)では日本健康科学センター構想の実現を2005年にはオープンすると発表している。東日本にも一か所あったもよい。高齢社会解決の夢はこれしかないと思っている。

ちなみに厚生省は全国各地に「健康科学センター」の設置を呼び掛けている。

これは健康教育の指導員の養成機関であり日本健康科学センターとは全く理念がちがうものである。現在この構想は関係省庁(厚生・文部・外務・通産

東京おのほな会勤務医支部 幹事会開催

3月26日(火)に東京海上ビル内の会議室において第1回の会合が開催された。参加者は東京おのほな会会長加納六郎先生、副会長貫洞一夫先生、幹事20名。先ず勤務医支部会発足に際して、会長、副会長から挨拶があり、ついで当面の課題として①年会費の徴収およびその運用②名簿編集委員の選出がとりあげられ、次のように意見が集約された。

年会費の徴収については地域支部会と重複しないように配慮し、今年度は名簿作成・送付費にあてることとした。名簿は今年11月までに作成。担当委員として官公立病院支部 新田義朗(昭38、都立荏原病院)、鈴木康子(昭57、東京都老人医療センター)、大学病院支部 久保長生(昭45、東京女子医大)、長谷川潔(昭56、同、清水公一(平

・郵政・建設・大蔵・自治省など)の関連事業によるナショナル・プロジェクトとして、倉田自治大臣がライフワークとされ検討していただいている。

3、同、清水健(平4、同)を選出した。なお本支部会の事務局は長汐病院(豊島区)におくこととなった。また5月10日(金)に第2回会合を開催し、本支部会の具体的な活動方針を話し合うこととした。

当日出席者(22名)：加納六郎会長(昭20)、貫洞一夫副会長(昭22)、新田実男勤務医副部長(昭22)、花岡建夫(昭33)、鈴木茂昭(昭35)、村田光範(昭35)、小島莊明(昭40)、久保長生(昭45)、横山淳一(昭48)、長谷川潔(昭56)、清水健(平4)、新田義朗(昭38)、宮下久夫(昭38)、守矢和人(昭38)、上野正巳(昭38)、蘭部友良(昭43)、菊池友允(昭47)、広岡昇(昭52)、山口哲生(昭53)、中村清吾(昭57)、鈴木康子(昭57)、井村佳雄(昭37)

(東京おのほな会勤務医部長 小幡 裕・昭28・記)

国立千葉病院創立50周年を祝う

国立千葉病院名誉院長

伊東 和人(昭23卒)

記念式典・祝賀会は平成7年12月3日、千葉市文化センター・ホテルサンガーデン千葉で来賓、参会者、300名余の出席を得て盛大に行われた。式典で森博志院長は創立50年の歴史を顧み、初代鈴木五郎院長以来の大学医学部、関係各位の協力に感謝の挨拶を行った。続いて、厚生大臣(代読)、井上裕参院議員、諸橋芳夫日本病院会会長ほかの祝辞があり、記念講演として、元NHK解説委員、行天良雄氏による「マスメディアから見た医療問題」が行われた。

祝賀会では、井出源四郎元学長、山口豊教授、藤森宗徳千葉市医師会長らが交々立って、50年の努力と今後の発展を期待する旨の祝辞が述べられた。大学医学部、当院登録医の市医師会員各位、病院先輩など、和やかで活気ある雰囲気がある懇話会に充ちた。

50年の歩み

明治41年、千葉市に鉄道連隊などと共に衛戍病院が創設され、その後、軍施設増設に伴い病院は昭和11

療教育研究を三位一体とした医学の実践は其後も受け継がれ現在に至っている。教育研修は昭和22年以來、インターン、研修生、レジデント計500名以上の実績がある他、昭和63年末、千葉市医師会ほかとセミ・オープンシステムを締結し、登録医制度による病診連携が推進され、公開カンファレンスの実施により生涯教育の実をあげている。

昭和22年4月、鈴木先生は千葉医大第一外科より教授兼任の院長として着任した。この事は軍病院当時勤務していた谷川久治教授(衛生学)から格別の話が あつての事と聞き及ぶ。鈴木院長就任の理念は「当面、傷痍軍人に正しい医療を施し早期に帰郷せしめ、更に地域の総合病院としての本領を発揮する。その為には診療を第一とし荒廢の極にある施設と環境の改善を必須とする。この為には大学より人材を得て職員活動の一切は診療に帰一する」とした。

幸にして副院長に三輪清三先生を迎え、同先生の千葉大教授昇任後は湯田好一先生の協力が得られ、加えて有為の人材が陸続と鈴木院長のもとに参集した。診療教育研究を三位一体とした医学の実践は其後も受け継がれ現在に至っている。教育研修は昭和22年以來、インターン、研修生、レジデント計500名以上の実績がある他、昭和63年末、千葉市医師会ほかとセミ・オープンシステムを締結し、登録医制度による病診連携が推進され、公開カンファレンスの実施により生涯教育の実をあげている。

昭和60年国立病院再編成計画により総合診療施設としての機能が附与された当院では、診療実績と同時に運営についても厳しく評価され、成果が直接還元される時代となり、職員の努力の結果、近年経営収支率の改善があり、医療職の増員、大型機器の購入、機能訓練棟など施設整備も実現しつつある。即ち、平成6年度、当院は10病棟で運営し、一日平均入院患者四一三名、外来七五二名を診療し、年間手術件数6千件に及ぶ地域不可欠の高度総合診療施設として機能している。特に内、外科的肝胆系、循環系疾患、糖尿病、整形外科、腫瘍疾患、乳腺外科、眼科など高度診療に対応している。臨床経験を希求する若手医師の参加を期待する。今秋参加人員4千名の厚生省総合医学会は会場施設として当院主管のもとに幕張メッセで行われる。これを機に国立病院再々編成に対応して半世紀の歴史を踏まえ、30年を経て老朽化した現病院に替る新病院建設実現のため、森院長の主張

各地のものはな会だより

秋田のものはな同窓会

秋田大学医学部救急医学講座教授として新任された稲葉英夫先生(昭54)の歓迎会を兼ねて、平成7年11月7日秋田市川反千寿で開催されました。

参加者各自の近況報告の後、稲葉先生から救急医学講座の現況に関するお話等があり、和気藹々のうちに、おそくまで歓談して散会しました。

当日出席者：児島三郎会長・県総合保健事業団(昭24)、飯島嘉之幹事(昭30)、長尾謙五郎(昭17)、佐々木宣明(昭24)、木村勉(昭20)、斎藤敏孝(昭23)、眞崎和夫(昭25)、戸川清秋大耳鼻科教授(昭32)、東絃一郎秋大耳鼻科講師(昭43)、最上栄蔵(乙会

する「21世紀への助走」を合言葉に職員一同想を新たに鋭意努力中である。

大学医学部、同窓会各位の御支援を希うものである。



J.J.



員・日医大昭34・二外)
(佐々木宣明・昭24・記)

シンガポールのものはな同窓会

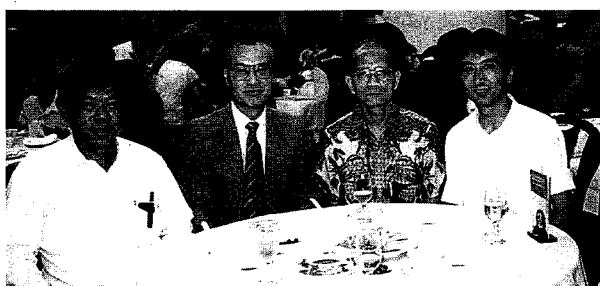
日本に多くの留学生を受け入れることが、中曽根内閣以来、大きく叫ばれている。本医学部では東南アジア諸国を中心に、その数は決して多くはないが継続して受け入れている。果たして本学で十分に納得の行く教育が行われ、日本への留学が本人や母国のためになり、留学生は良い印象をもって帰国したか否かは教員の一人として気になることである。

シンガポールには、現在本学卒業生が5人活躍して居られる。今年、同国を訪ねる機会があったので、3月2日に同窓会を開催していただいたところ、旧正月にもかかわらず、2人の同窓生(Tan King Twok 陳經卓・昭42、Suwandi No. 許榮旋・昭47)と、日本人診療所に呼吸器内科より派遣されている中田曉医師(昭61)のご出席を得ることができた。

両人とも、本学での学生生活をエンジョイし、卒後研修も満足に受け、医療技術は本国で正しく評価されていること、また他国あるいは自国の大学出身者と同等に活躍されていることを聞き、微力ながら本学が役に立つことができたことを大変光榮に思った。また現地派遣の中田医師も、日本人の診療にたずさわり、強い信頼を得ているのを知り、うれしく思った。

今後、留学生は、学部学生は今のレベルに止まっていなくてはならないが、大学院生は更に増加するものと思われ、留学生のフォローアップが必要と思われる。最後に、これからも、本学出身の同窓生が世界各地において活躍されることを期待したい。

(嶋田 裕・昭35・記)



君津木更津ののはな同窓会総会



去る平成8年2月21日に木更津市内富士屋ホテルにおいて平成7年度の総会が開かれました。当日はののはな会本部よりご寄付を賜り誠にありがとうございました。当地区の会員数は現在百十四名で君津中央病院が46名、木更津病院が8名、開業医が41名、そのほか勤務医や薬学部出身者が19名と多士済です。今年度の総

会の出席者は43名でした。会長三枝一雄先生(昭32、富津市、三枝病院院長)の挨拶のあと会計報告、事業報告を行い、次いでのはな会本部からお招きした本学第一内科教授税所宏光先生のご講演を拝聴しました。演題は「脾疾患の画像診断—最近のトピックスを中心にして—」で脾臓癌の診断治療の難しさと新しいSTRATEGYの進歩について勉強させていただきまし

た。記念撮影の後、川本勉先生(昭16)の乾杯のご挨拶で懇親会に入り、各世代が一体となって楽しいひとときを過ごしました。二次会には教授も来ていただき遅くまで盛り上がりしました。(幹事 田中弘一・昭42・記)

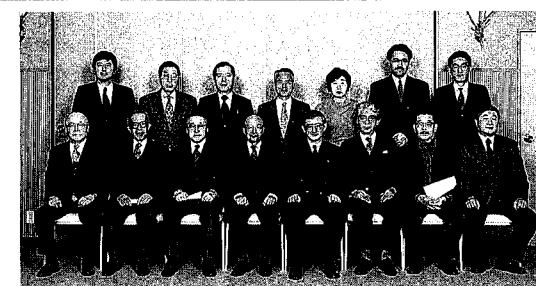
ののはな同窓会山梨支部報告



平成8年2月24日、山梨ののはな同窓会が、甲府市の談露館で、会員38名中14名の出席で開催されました。当日は、大学より千葉大学医学部附属病院院長の新美仁男教授をお迎えし、また、たまたま講演で来甲されました東邦大学佐倉病院内科教授富岡政夫先生(昭39)の御参加も得ることができ

ました。また山梨県立中央病院院長を務められ現在山梨県赤十字血液センター所長の横山宏先生(専25)が県政功績者表彰を受けられたことと、溝部孝二先生(専27)が、次期山梨県医師会会長に選出されたことの祝賀を兼ねて盛大に開催されました。まず佐々木芳岡会長(専19)の挨拶、乾杯のあと、清水天(昭39)幹事から会計ならびに会務報告を受けました。

新美教授より最近の学内事情や新病院建築後の駐車場難や交通渋滞など大学周辺の様変りした様子、千葉市の発展・変貌等のお話しを、富岡教授からは私学からではの苦労話、私学から見た千葉大学などのお話を聞かせていただきました。溝部先生は、急用で欠席されましたが、皆で久しぶりに近況や昔話に花を咲かせ、楽しい一時を過ごしました。最後に、中沢肇先生(昭52)が全員の集合写真を撮影下さり散会しました。当日出席者：赤沢勇(昭18)、佐々木芳岡(専19)、跡部勝朗・横山 宏(専25)、小林清房(昭27)、近藤茂・保坂 達(専27)、赤星



至朗(昭34)、三井 静(昭38)、清水 天・山口正敏(昭39)、中沢 肇(昭52)、会田 薫・相原正男(昭56)(山口 正敏・昭39・記) 安房ののはな会

安房ののはな会(会長野原宏は、平成8年2月2日(金)館山市夕日海岸ホテルで、救急医学講座平沢博之教授をお迎えして開催された。総会の後、最近の学内事情と「クリティカルケアにおける最近の進歩」について、平沢教授から御講演を頂き懇親会となった。当日の出席者は次の通り。野原宏(専17)、伊賀多朗(22)本位田泰介(28)、貴家昭而(30)、蟹沢晴子(32)、西川義明(34)、原久彌(34)、青木謹(36)、関谷信平(38)、溝

口勝(41)、中村宏(43)、梶川工(54)、市来真彦(4) 安房医師会の経営する安房医師会病院は、奥井勝二先生、大藤正雄先生に顧問として御指導頂き、第一外科より上村公平(50)副院長兼病院管理者、安部已紀男(54)、医局長、飯塚勇(新潟4)、片倉達(山梨5)、第一内科より梶川工(54)、医務部長、野本裕正(慈恵6)、第三内科より山本光之(59)、肺内科より松沢康雄(3)の各氏が常勤医として活躍している。(青木 謹)

支部長・1地区(千葉)大浜博利、2地区(市原・木更津・君津)三枝一雄、3地区(習志野・鎌倉)山崎芳久、4地区(浦安市)国井光智、5地区(鴨川・安房)野原宏(専17)、6地区(勝浦・夷隅)穴戸正胤(昭37)、7地区(東金)石橋祝、8地区(八日市場・佐原・野口晃平(昭29)、9地区(八街・四街道)粕谷秀雄、10地

区 松戸、流山、我孫子)青木敏郎(昭33) 国立千葉病院 病院長 森 博志(昭31)内科 副院長 武者 廣隆(昭40)内科 医局長 鈴木 一郎(昭42)外科 医長 大川 玲子(昭47)産科 石川 亮夫(昭34)泌尿科 西沢 直(昭37)循環外科 高沢 博昭(昭39)臨病理 内藤 準哉(昭42)耳鼻咽喉科 青木 靖雄(昭43)外科 田沢 洋一(昭44)外科 白松 一安(昭45)外科 吉田 孝宣(昭46)内科 青柳 光生(昭49)麻酔科 永瀬 譲史(昭50)整形外科 内海 勝夫(昭50)内科 武田 憲夫(昭51)眼科 石毛 尚起(昭54)脳外科 小林千鶴子(昭41)内科 富永 格(昭48)産科 篠崎 文信(昭51)放射線科 西岡 正昭(昭56)眼科 江口奈緒美(昭61)皮膚科 その他医員 常勤、非常勤、レジデント、研修医は計40名で、総計61名の医師で診療を行っている。



クラス会

三五会

(昭和35年卒)

平成7年度の年会は横浜中華街の「聘珍樓」で、平成8年3月9日(土)午後6時半より総勢24名が集い(写真)、神奈川の河野信夫君(扇田胃腸科医院)と野口力君(恵風園胃腸病院)が幹事で行われた。

久しぶりの横浜は、周辺の近代化が進み、

昔のままの中華街の大通りも狭く感じられた。横浜は中華街も若者の町との印象が拭い切れないのは我々が齢をとった所為であろなか。

地元とあって、

東海大教授(放射線科)の母里知之君が実に20年振りに、しかも母里啓子さん(戸塚保健所長)と夫婦で揃って現れた。これも何年振りかで現れた高橋徹君は東京国際大(人間社会学部)に教授と



(藤村眞示・記)

卒業50周年
記念クラス会

(昭和21年卒)

して第二の職を得、軽部富美夫君は現職を辞して静岡県佐久間町の町長選に出馬予定と勇ましい。欠席の長谷川鎮雄君、道場信孝君は、それぞれ、筑波大附属病院院長、帝京大市原病院副院長の由。東京女子医大教授の鈴木茂君は今年は内視鏡学会会長と忙しい。ともあれ互いに消息を確かめ合い、三々五々、二次会の声もなく別れた。来年は雨宮浩君(国立小児病院小児医療研究センター長)の世話で東京で。

昭和16年12月太平洋戦争に突入した。翌17年の9月、本大学に入学した頃は、まだ戦勝に酔い、勝利を信じていたが、その後戦況は悪化の一途を辿り、空襲警報のため臨床講義をしばしば中止せざるを得なかった。20年に終戦、正に惨めな学生時代であった。21年に卒業、半年のインターン、国家試験を経て曲がりなりにも医師となったが、卒業後荒廃した社会にあって、十分なる臨床研修も医学研究もなし得ず、すべてにおいてハングリーのまま、貧欲なまでに医学医療の遅れを取り戻そうと必死であった。それから半世紀が足早に過ぎ去ってしまった。還暦を過ぎてから、急に病を訴える級友が多くなったので、少し早目ではあったが50年目を迎えた昨年の11月18日に記念のクラス会を持つことができた。

クラス会に先だって医学部を見学することにした。高橋英世医学部長と鶴田英夫事務長の出迎えを受け、三階の会議室で医学部の医学教育についての医学部長の説明を受けた。懐かしい

旧病院内を歩き、戸外に出て、薬学部跡を抜け、連絡道路からテニスコート、その奥の真核微生物研究センター(旧腐敗研究所)を眺め、その教授であった故藤原喜久夫君を偲んだ。

新病院に入り、

最近の医療技術の提示があり、その進歩に目を見張り、美事なCT写真に感心した。途中戸外に出て、クラスが卒業30年記念に植えた黒松(腐敗研究所より移植)と相磯和嘉先生に揮こうして頂いた30年記念碑を感慨深く見入り、年月の移り変わりの早さに思いを馳せた。事務長の案内で屋上に上がり、千葉市を一望し、ついで会議室に戻り、医学部長より新病院の医療組織についてお話を伺った。参加者は20名であった。

記念クラス会の出席者は27名、各人学生の頃からの思い出を話してくれた。後半には酔いも加わってか若者のような大声、あるいは老人の愚痴もあったりし



一葉会開催

(昭和17年卒)

平成7年6月10日浅草のビュー・ホテルで一葉会が開催されました。ご報告がたいへん遅くなりましたが、誠に申し訳ありません。この頃とみに不精になりましたが、何となくのびたりとしたが、何とか本紙に載せて頂いて級友や関係ある方々にお知らせしたいと思ひ筆を執りました。一葉会は千葉の付属医専の第一回卒業業という事で名付けられたものと記憶しています。昭和17年9月の戦争熾烈の真つ最中の卒業ですので、戦争で亡くなった級友も数多くなっています。

残った者は夫々に一生懸命に戦後を生きぬいてきました。集まった皆さんは戦後の歴史を背負って来た者ばかりでした。

当日は一泊する者とその日に帰る者とおりましたが、会のまえにビューホテル自慢の檜風呂に入浴することができ、温泉気分が宴会が持てました。

井出元学長をお招きしましたら、快く出席頂き、級友は井出先生と同じ年の方が多く、当時の話に花が咲きました。



(本間三郎・記)



(山上健次郎・記)

先生はご自分の健康法を披露され、実演までして下さいました。体の柔らかなこと皆々一驚しました。また井出先生の飾らないお人柄もあって、話も弾み会はたいへん盛り上がりまして、井出先生ありがとうございました。

8年度は、野原君が幹事で懐かしい房州で開かれることになりました。お元気で次回もまたお目に掛かりましょう。

出席者：田尻哲夫・中島春美・長尾謙五郎・新庄幸平・出井三郎・長谷川俊吉・本橋健作・斉藤敏郎・長田紀春・斉木林之介・野原宏・山上健次郎

平成7年度 卒業生進路

〔千葉大一内科〕有本 央
今村隆明、黒田泰久、千葉
哲博、平出 明、〔二内科〕
内田裕子、金森由美子、鈴
木啓司、野口優子、日野雅
子、藤川一壽、布施まさみ、
矢吹清美、〔三内科〕天野
豊、豊田智彦、大塚正史、
小椋健司、和田 浩、〔放
射線科〕浅川直之、阿部
敦、〔二外科〕三階貴史、
清水公雄、小杉千弘、高見
洋司、高屋敷 吏、土田大
介、百武恵子、〔二外科〕
赤井 崇、大平 学〔整形
外科〕赤澤 努、赤松利信、
熱田智範、竹内仁煥、政木
豊、渡辺淳也、加藤 剛、
〔産婦人科〕小倉孝一〔眼
科〕柿沼健裕、田辺玲子、
新村美代子、和知朝子、〔皮
膚科〕中島陽子、〔泌尿器
科〕石原順就、今本 敬、
金水英俊、清水亮行、関田
信之、中町 裕、〔耳鼻科〕
石井友季子、杉野恭子、〔小
児科〕齋藤はるか、下橋京
子、〔精神科〕石井理恵、
井上 博、岡本英輝、〔麻
酔科〕岡田尚子、興津由美、
〔神経内科〕赤田弘一、大
飯啓史、谷 将之、高間淳
子、〔形成外科〕田村英彦、
〔肺外科〕清水治子、〔呼

吸器内科〕浅香佳子、石川
哲、寺沢公仁子、小林 研、
西脇 徹、保谷好絵、松尾
直樹、和田曉彦、〔救急部〕
平野 剛、平山信男、星野
敏彦、〔東大形成外科〕内
田源太郎、〔産婦人科〕志
賀かをり、柴田有紀子、〔内
科〕服部智行、〔麻酔科〕
原田雅樹、〔脳外科〕宮本
伸哉、〔大阪総合医療セン
ター泌尿器〕浅井利大、〔大
阪府立病院整形外科〕石川
昌彦、〔阪和泉北病院四内
科〕石川弓子、〔筑波大産
婦人科〕川崎（今田）彰子、
〔東京女医大心臓血管研究
所〕石田 徹、〔国立病院
東京災害医療センター〕笠
松淳也、〔大森赤十字病院〕
桑本紀子、〔松戸市立病院〕
坂間淳孝、〔都立松沢病院精
神科〕佐々木龍一、〔武蔵
野赤十字病院〕松木圭介〔旭
中央病院〕瀬戸洋平、〔京
大老年科〕廣野明壽、〔国
立埼玉病院総合診療科〕玉
井恒憲、〔不明〕平澤雄一

平成8年度

医学部入学者

〔千葉（県立）〕金屋敷享
江、清水恵也、半田 聡、
守屋拓朗、荻田純子、池上
史郎、〔開成〕鶴岡弘章、
外池範正、服部憲幸、高田
展行、加野将之、李 記璋、

辰巳智章、洪 勝男、赤荻
悠一、〔桜蔭〕古田美穂、
川久保幸紀、小林直子、佐
藤真由美、服部百合恵、小
林紘子、本郷真紀子、神保
りか、〔麻布〕岩田 曜、
吉川真太郎、〔海城〕清水
怜、澤井 摂、山内圭太、
加地竜士、〔東京学芸大附
属〕徳本みずき、田代恭子、
頃安久美子、〔筑波大附属
駒馬〕鎌谷洋一郎、田島敏
樹、寒竹政司、杉本龍史、
清水逸平、神田真人、今田
浩史、〔東邦大附属東邦〕
中本晋吾、橘香穂里、露崎
淳一、東條剛士、吉井 淳、
〔栄光学園〕篠崎広一郎、
石橋啓如、藤原大樹、仁科
洋人、〔駒馬東邦〕竹尾
悟、石崎俊介、高岡浩之、
竹田勇輔、〔鹿児島ウ・サ
ー〕大岡美彦、中本祐樹、
〔慶応女子〕平尾 文、長
谷川亜希子、〔川越〕藤本
竜也、戸田英海、田沢和雅、
〔フェリス〕工藤陽子、林
ゆり子、〔船橋（県立）〕栗
村真由美、和田啓伸、〔大
検〕東出高至、鈴木理之、
〔普通連土〕村田麻理、〔国
学院久我山〕坂田 礼、〔女
子学院〕奥 怜子、〔船橋
旭〕代市拓也、〔日比谷〕
万代恭史、〔新宿〕上野高
尚、〔甲陵〕岩沢俊一郎、〔上
野〕原田 修、〔鎌倉〕有
馬聖永、〔希望ヶ丘〕島田

平成8年度

大学院医学 研究科入学者

〔解剖学〕岸 フク子、
TIN MOE NWE、〔薬理
学〕大木由樹、〔分子医学〕
長嶋一昭、〔免疫学〕近藤
英介、〔遺伝生物学〕大滝
雅之、〔衛生学〕金 亜平、
中沢哲也、〔法医学〕安部
睦、〔内科学〕天野 晋、
梅澤正美、遠藤恒宏、加藤
佳瑞紀、小杉信晴、伊達葉
子、積田玲子、土合克巳、

忠長、〔東宇治〕宇高 靖、
〔八王子東〕大川雅樹、〔豊
橋南〕水野嘉信、〔新潟〕
秋田新介、〔長生〕賀川真
吾、〔安積女子〕村上智子、
〔慶応志木〕見目智紀、〔城
北〕緒方信矢、〔盛岡第二〕
高橋和香、〔天王寺〕金原
志芳、〔小石川〕河合繁夫、
〔渋谷学園幕張〕高橋正憲、
〔富士〕横溝十誠、〔静岡〕
笹原資太郎、〔長崎南〕森
悦子、〔前橋女子〕椎名由
美、〔巣鴨〕高橋正行、〔桐
朋〕篠川 潤、〔志学館〕宮
崎兼考、〔諏訪清陵〕北原
秀喜、〔出雲〕今井逸雄、〔桐
蔭〕千原由美子、〔学習院
女子〕小西阿希、〔武蔵〕
関 庚徳、〔愛光〕杉浦寿
彦、〔留学生〕柴 玉珠、
東 嘉軒

第90回医師国家 試験行われる

本年の医師国家試験は3
月16日、17日に行われ、4
月21日に合格発表があり、
九、〇五七名の新医師が誕
生した。本学から一〇五名
が受験し、合格者は九七名
で、合格率は九二・四％で
あった。なお全国平均は八
九・三％、国立大学の平均
は八九・七％であった。

第38回 東医体を終えて

運営委員長 小松幹一郎
評議員長 照井 慶太
春もたけなわの折り、先
生方におかれましてはいか
がおすごしでしょうか。3
月に菅平高原にて行われた
スキー競技をもちまして、
第38回東医体は終了いたし
ました。これまで我々運営
委員会一同、主管業務成功
の為頑張ってきましたが無
事に大会が終了したことに
ほっと胸をなで下ろしてい
ます。

一昨年の4月頃、主管の
話を聞き何もわからない状
態からスタートして、組閣、
資金集め、主管業務の把握
と進めてきたのですが、終
わってみると予想以上に主
管業務の重要さ、大変さを
感じずにはいられません。
特に資金集めは当初全く進
まず、OBの先生方の温か
いご支援が無ければ、無事
に大会を運営することもま
まならなかったと思いま
す。この場を借りまして厚
く御礼申し上げます。
さてこれからの我々の活
動ですが、なんと2年後の
平成10年度Cグループ主管
に我が千葉大学も入ってお
り、そのために我々の経験
を後輩達に責任をもって伝
えていきたいと思えます。
そして平成10年度の主管を
スムーズに運営出来るよう
協力していきたいと思いま
すので、これからも千葉大
学東医体運営委員会を宜し
くお願いいたします。尚、
第38回東医体運営委員会の
最終的な決算報告につきま
しては11月の定例評議員
会において承認を取り次第
報告させていただきます。

東医体結果
総合成績
一位 北大・二位 新潟大・
三位 自治医大・千大 24位
女子部門総合成績
一位 東京女医大・二位 旭
川医大・三位 聖マリアン
ナ医大・千大 27位
冬季大会総合成績
一位 旭川医大・二位 北大・
三位 札幌医大・千大 25位
ラグビー：一位 自治医大
・二位 新潟大・三位 防衛
医大・千大 17位
アイスホッケー：一位 筑
波大・二位 順天大・三位
北大・千大 不参加
スピードスケート：一位
福島医大・二位 秋田大・
三位 東北大・千大 不参加
スキー（男）一位 北大・
二位 旭川医大・三位 東北
大・千大 24位（女）一位
旭川医大・二位 山形大・
三位 札幌大・千大 22位

ゐのはな同窓会 常任理事会議事録

日時：平成8年4月24日
16時～17時30分

場所：千葉市ペリエ

出席者：井出会長、加納副
会長、新藤監事

他常任理事(敬称略)茂
又、貫堂、伊藤、高村、越川、
小杉、長沢、小幡、大藤、三
枝、佐藤、嶋田、増田、木内、
本島、福田 各理事。

議題：

一、乙会員からの会費徴集
に關連した会則の一部を
改正する案を審議承認。
二、平成7年度決算案の承
認。

三、平成8年度予算案 一
部修正のうえ承認。総会
に提案することになる。
四、同窓会賞授賞選考の件。
総会までに最終選考を行
うことになった。なお、外
国の学者を対象とする際
の受賞資格も前向きに検
討した。

五、以上を中心に総会議題
案を決定した。

このほか、同窓会賞と
は別の顕彰規定も今後検
討することに決定。

また総会では、各地区
るのはな会の状況を報告
して頂く事になった。

なお、常任理事会終了

後、5時30分より会員の
親睦会である四金会が行
われた。名誉会員に推薦
された先生方、昇任され
た先生方などを含め、和
やかな交歓の時を過ご
し、一部は二次会の方で
も話が弾んだようである。

人事異動

名誉教授

永野俊雄(昭30)

橘 正道(東大昭29)

島崎 淳(昭29)

助教教授昇任

菅井桂雄(昭51)救急医学

(同講師より)

田代亜彦(昭43)外科学第一

(同講師より)

江原正明(昭49)内科学第一

(同講師より)

講師昇任

寺田修久(秋田大昭57)耳鼻

咽喉科(同助手より)

日野 剛(昭58)耳鼻咽喉科

(同助手より)

山本達郎(昭57)麻酔科(同

助手より)

馬場雅行(昭50)肺外科(同

助手より)

宮崎 彰(順天堂大昭52)内

科学第三(同助手より)

柴 光年(昭50)肺外科(同

助手より)

今関文夫(昭54)第一内科

(同助手より)

布村正夫(昭53)第一外科

(同助手より)

千葉県職員異動

保健所長

清口 勝(昭41)習志野

(館山より)

堀部活男(昭35)佐倉(茂原

より)

内田佐太(昭37)茂原(習志

野より)

がんセンター

倉田矩正(昭42)臨床検査部

長(若手県立代立)

鈴木晴彦(昭48)頭頸科部長

(主任医長より)

永田松夫(昭53)外科医長

(病院長代理より)

田口 昇(昭60)麻酔科医長

(千大助手より)

精神科医療センター

川島道美(昭51)主任医長

(医長より)

こども病院

真家雅彦(昭35)病院長(医

療局長より)

鳥羽 剛(昭38)医療局長

(診療部長より)

黒田紀子(昭40)診療部長

(眼科部長より)

宮本茂樹(昭51)主任医長

(医長より)

東本恭幸(昭59)外科医長

(兵庫県立こども

病院医長より)

救急医療センター

小野智敏(昭60)整形外科医

長

一般県立病院

東金病院

小林 治(昭51)主任医長

(医長より)

吉田正美(昭59)外科医長

佐原病院

太田要生(昭45)主任医長

(八街少年院医務課長より)

鶴舞病院

飯沼克博(昭55)医長(国保

国吉病院診療局長より)

新名簿(一九九六年版)予約申込みご案内

発行予定 平成8年11月

価 格 3千円(送料を含む)

規 格 B5版(カラー8ページ)

未だ予約をされていない方は、同窓会事務室ま

でご連絡下さい。振込用紙を送付致します。

会費納入のお願い

平成8年度分の会費の納入をお願い致します。同

封の振込用紙にてご送金下さい。

千葉県医師会新役員

平成8年3月10日(土)の千

葉県医師会代議員会に於

て、現会長渡辺武氏は、選挙

により五度会長に選任され

た。副会長、理事で本学出身

者は次の通り。(○の中の数

字は選任回数、最下段は出

身地区医師会名を示す)

会 長

渡辺 武(昭27)⑤船橋

副会長

山口 豊(昭31)②大学

理 事

三枝一雄(昭32)②君津

遠藤幸男(昭34)⑤船橋

横山健郎(昭36)③国立

栗原伸夫(昭38)⑤習志野

木下 昌(昭38)②千葉

日本医師会代議員

川村純一(専25)④八日市場

渡辺 武(昭27)⑤船橋

松石久義(昭33)③千葉

藤森宗徳(昭37)④千葉

今後の四金会の開催予定

平成8年11月27日 (水)

平成9年2月26日 (水)

いずれも午後5時30分よ

り。場所は後日発表しま

す。

お詫びと訂正

前号(一一〇号)のクラ

ス会の欄中、もぐら会と45

卒クラス会の写真を取り違

えて掲載しました。訂正し

てお詫び致します。

おくやみ

今井 和文(昭4)

池田 脩三(昭6)

平本 義典(昭9)

小林 忠人(昭11)

佐久間栄枝(昭14)

高嶺 登(昭19)

加瀬 孝(専19)

岩井 秀夫(専20)

上白土啓一(専20)

小林 達夫(昭21)

熱田 英雄(昭23)

中村 司(専24)

鴻 孝義(昭25)

荒川 四郎(専25)

井上 昭彦(専25)

羽鳥 弘(昭26)

小倉 明子(昭39)

滝西 修司(昭39)

編集後記

大田和明氏(専26)より、

左記の二点が同窓会へ寄贈

されました。

・大田益三氏(明27)の第

一高等学校医学部卒業証

書(写真左上)。

・養気軒自筆の人体解剖図

(養気軒は大田氏の祖先で

尾張藩の初代藩医をつとめ

た人。これは養気軒が延宝

年間に模写した解剖図)。

ヨーロッパの大学に行く

と立派な博物館が必ず医学

部に附置されており、大変

羨ましく思います。本学に

は東洋医学の古書が多数あ

ります。本学でも歴史的・

教育的資料の保存・収集と

有効活用が

期待されま

す。本会報は

外国在住の

同窓会員に

も送付して

おりますの

で、正確な

住所をお知

らせ下さい。

また海外か

らの投稿も

歓迎致しま

す。(嶋田 裕)

大田益三氏(専26)より、

左記の二点が同窓会へ寄贈

されました。

・大田益三氏(明27)の第

一高等学校医学部卒業証

書(写真左上)。

・養気軒自筆の人体解剖図

(養気軒は大田氏の祖先で

尾張藩の初代藩医をつとめ

た人。これは養気軒が延宝

年間に模写した解剖図)。

ヨーロッパの大学に行く

と立派な博物館が必ず医学

部に附置されており、大変

羨ましく思います。本学に

は東洋医学の古書が多数あ

ります。本学でも歴史的・

教育的資料の保存・収集と